

CORPORATE PROFILE 2026

横浜市交通局事業案内



信頼を心で運ぶ市バス・地下鉄
横浜市交通局

市民のみなさまの暮らしを支える横浜市営交通

安政6年(1859年)の横浜開港以降、都市としての歩みを始めた横浜。

横浜市営交通は、横浜市が横浜電気鉄道株式会社を買収し、大正10年(1921年)4月に路面電車(市電)を所管する電気局を設置したことから始まりました。

その後、昭和3年(1928年)に市営バスを開業。昭和47年(1972年)には、市電を廃止し、高速鉄道として市営地下鉄(ブルーライン)を開業、平成20年(2008年)には市営地下鉄グリーンラインを開業しました。

開業以来、市民のみなさまの最も身近な交通機関として、暮らしに寄り添ってきました。いまや人口約377万人(※1)に発展した国際都市横浜において、市民のみなさまの生活やビジネス、国内外の旅行者の観光を、確かな信頼と実績で支え、バス・地下鉄合わせて、1日約94万人(※2)のお客様にご利用いただいています。

これからも将来にわたって「市民のみなさまの足」であり続けるために、弛まぬ努力を続け、みなさまに愛され、信頼される交通機関を目指します。

※1 令和8年1月1日現在

※2 令和6年度決算時点

沿革

西暦	年号	月日	出来事	西暦	年号	月日	出来事
1889	明治22年	4月1日	横浜市制施行	1993	平成5年	3月18日	地下鉄開業(新横浜～あざみ野間)
1904	明治37年	7月15日	横浜電気鉄道(株)が市内初の電車営業開始(現青木橋～桜木町駅前間)			7月21日	横浜市交通事業経営健全化委員会設置
1921	大正10年	4月1日	横浜市電気局誕生 市営電車開業(横浜電気鉄道(株)を買収)	1994	平成6年	8月9日	横浜市交通事業経営健全化委員会答申
1923	大正12年	9月1日	関東大震災発生	1998	平成10年	10月10日	市営交通イメージキャラクター「はまりん」誕生
1928	昭和3年	11月10日	市営バス営業開始	1999	平成11年	3月31日	貸切観光バス事業廃止
1933	昭和8年	2月3日	貸切バス営業開始			8月29日	地下鉄開業(戸塚～湘南台間)
1935	昭和10年	12月23日	市内遊覧バス営業開始	2003	平成15年	3月13日	市営交通事業あり方検討委員会設置
1941	昭和16年	12月8日	太平洋戦争はじまる			9月3日	あり方検討委員会答申(地下鉄)
1945	昭和20年	5月29日	横浜大空襲で壊滅的被害(電車45両、バス53台焼失)	2004	平成16年	1月22日	あり方検討委員会答申(バス)
		8月15日	終戦			12月1日	地下鉄駅業務委託開始
1946	昭和21年	5月31日	電気局を交通局に改称	2005	平成17年	3月28日	観光スポット周遊バス「あかいくつ」運行開始
1952	昭和27年	5月12日	バスのワンマンカー使用開始	2006	平成18年	3月26日	バス野庭営業所廃止
		10月1日	地方公営企業法施行 電車、バスとも企業会計による独立採算制となる			6月15日	ブルーライン、グリーンライン路線の名前発表
1959	昭和34年	7月16日	トロリーバス営業開始	2007	平成19年	3月18日	ICカード利用開始
1966	昭和41年	11月1日	交通事業財政再建計画開始(14年間、市電廃止計画策定)			3月31日	バス港北ニュータウン営業所廃止
1972	昭和47年	3月31日	電車、トロリーバスともに全廃			12月15日	地下鉄ワンマン運転開始
		12月16日	地下鉄開業(伊勢佐木長者町～上大岡間)	2008	平成20年	2月9日	バス運行業務委託開始
1974	昭和49年	3月6日	第2次財政再建計画開始(15年間)			3月30日	地下鉄グリーンライン(中山～日吉間)開業
1976	昭和51年	9月4日	地下鉄開業(伊勢佐木長者町～横浜間、上大岡～上永谷間)	2015	平成27年	7月18日	地下鉄ブルーライン快速運転開始
1985	昭和60年	3月14日	地下鉄開業(横浜～新横浜間、上永谷～舞岡間)	2016	平成28年	10月1日	市内遊覧バス事業廃止
1987	昭和62年	5月24日	地下鉄開業(舞岡～戸塚間)	2019	令和元年	10月31日	ピアライン運行開始・FCバス営業運行開始
1988	昭和63年	3月31日	第2次財政再建計画終了	2020	令和2年	7月23日	連節バス[BAYSIDE BLUE(ベイサイドブルー)]運行開始
1989	平成元年	8月27日	地下鉄戸塚駅本開業	2021	令和3年	4月1日	横浜市営交通100周年
				2022	令和4年	6月15日	横浜市営交通経営審議会設置
						12月16日	横浜市営地下鉄50周年
				2023	令和5年	5月11日	横浜市営交通経営審議会答申

経営理念

私たちの決意

私たちは、市民のみなさまの足として、安全・確実・快適な交通サービスを提供し、お客様にご満足いただけるよう、経営力を高め、持続的な改善に取り組みます。

1. 安全意識を高く持ち、安全確保を最優先します。
2. お客様の声を大切にします。
3. いつも笑顔で、挨拶を励行します。
4. 公正かつ誠実に行動します。
5. 常に課題を明らかにし、チャレンジします。

私たちのメッセージ

信頼を心で運ぶ市バス・地下鉄

安全方針

私たちは、安全な運行の提供がお客様への最大のサービスであることを認識し、どなたにも安心してご利用いただける市営交通をめざします。

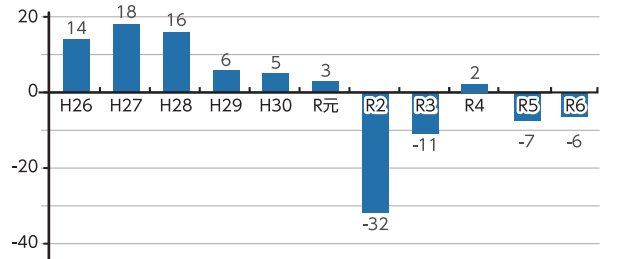
1. 安全意識を高く持ち、決められたルールを深く認識し、しっかり守ります。
2. 安全を維持し向上させていく取組を常に見直し、改善に努めます。
3. 安全な車両・設備などの提供に努めます。
4. 日ごろからコミュニケーションを活発にし、安全第一の職場風土を築きます。

経営概況

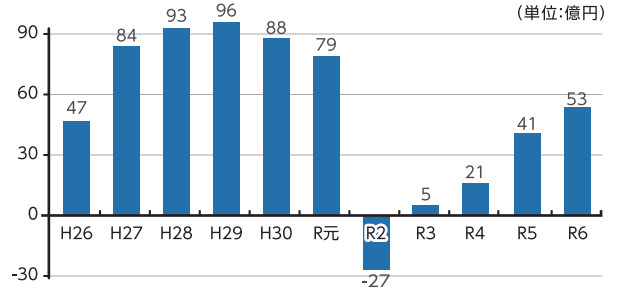
市営交通の経営を取り巻く環境は、労務費や物価の高騰、バス乗務員をはじめとした深刻な人財不足に加え、インバウンド需要や脱炭素社会への対応など多様化しています。将来にわたり安定した交通サービスを提供し続けるために、こうした事業環境の変化に対応した事業運営が行える体質への転換が必要です。

こうした状況のもと、外部の有識者で構成される「横浜市営交通経営審議会」の答申を踏まえ、令和5年度に、「市営交通中期経営計画2023-2026」を策定しました。経営における5つの柱「安全の確保」「市民の足を守る」「公営交通の責務」「財務基盤の強化」「人材育成の推進」に最優先に取り組むとともに、1人ひとりの職員が生き活きと活躍し、また経営改善への意識を高めていくことで持続可能な経営基盤の確立を目指していきます。

市営バスの経常損益の推移

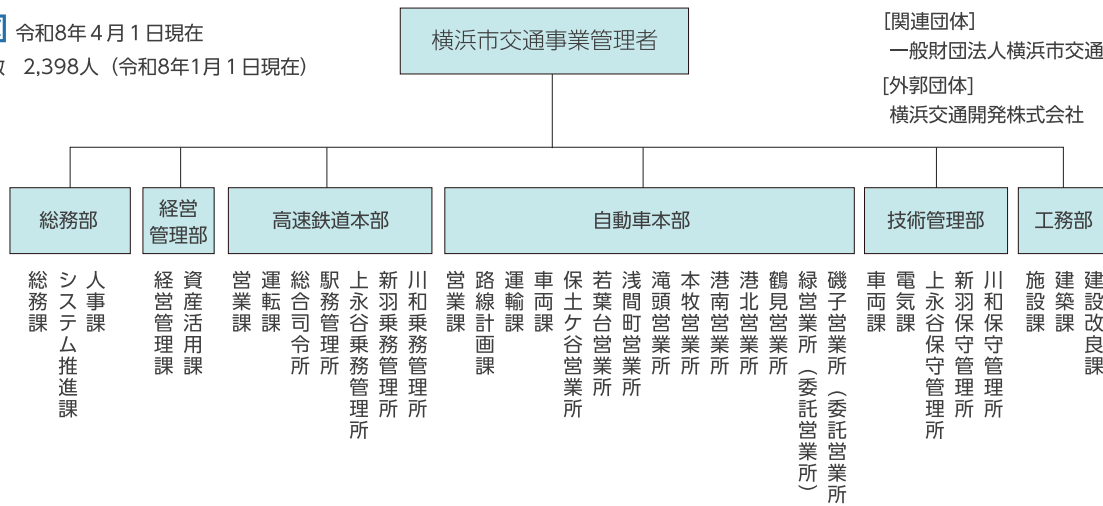


市営地下鉄の経常損益の推移



組織図 令和8年4月1日現在

正規職員数 2,398人 (令和8年1月1日現在)



経営における5つの柱

安全の確保

安全な運行の提供が交通事業者としての最大の使命であることを再認識し、安全確保の意識や取組を徹底するとともに、施設・設備の老朽化対策等に努めます。

市民の足を守る

需要に見合ったバス路線の最適化や自然災害等への備えを行い、次の100年も市民のみなさまの当たり前の日常を支え続けていきます。

公営交通の責務

脱炭素やバリアフリーなどの社会的要請に対応するとともに、沿線の活性化などを推進し、横浜の市民生活とまちづくりに貢献していきます。

財務基盤の強化

身の丈に合った経営への変革を進め、増収策や支出の抑制、業務の見直し・効率化などを行い、将来に向けた財務基盤を構築します。

人財育成の推進

人財は事業を運営するうえでの重要な資本と考え、次世代を支える人財の確保・育成、働きやすい制度や環境整備など、事業を支える人財・組織の基盤を確立します。

快適にご利用いただくために

駅施設・設備



●駅のリニューアル

ホーム・コンコース・トイレなどの施設や設備を計画的に更新し、快適性やバリアフリーの向上を図っています。



●ブルーラインの段差・隙間縮小

車いす利用者が駅員などの介助なしに乗降できるよう、ホームと車両の段差と隙間を縮小する工事を進めています。



●エレベーター、エスカレーターの更新

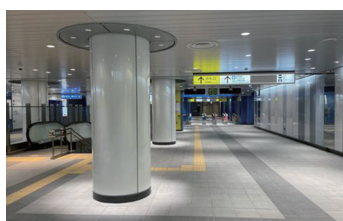
より安全で快適な設備をご利用いただくため、エレベーターや音声案内付きエスカレーターへの更新を順次進めています。

脱炭素社会の実現に向けた取組

交通局では脱炭素社会の実現に向けて、CO₂（二酸化炭素）の排出削減に取り組んでいます。

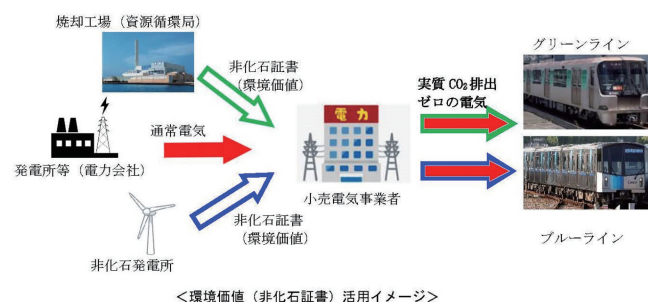
照明のLED化

CO₂（二酸化炭素）の排出削減を目的として、「横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）」に基づき照明のLED化を進めています。



主な取組として地下鉄駅構内や地下鉄トンネル内、車両基地やバス営業所等に設置されてる蛍光灯や水銀灯をLED照明に更新します。

地下鉄全線への非化石証書活用



地下鉄全線で「電気」と「環境価値（非化石証書）」をあわせて調達し、実質CO₂排出ゼロで運行します。



バス事業概要

市営バスは、主に市の中心部を運行するとともに、鉄道駅と連携したきめ細やかな路線網を拡げ、毎日約31万人(令和6年度決算(一般乗合バス、特定バス及び貸切バスを含む))の身近な交通機関として活躍しています。道路網の整備などに合わせて、輸送需要に見合ったバス路線の再編整備を図るとともに、交通不便地域の解消など、市民生活を支える路線の充実に努めています。

また、横浜ベイエリアの観光スポットを周遊するバス「あかいくつ」や、連節バス「BAYSIDE BLUE(ベイサイドブルー)」を運行しています。

貸切バス事業においては、リムジンバスや路線バスなどの車両を用意し、観光や学校の社会科見学、企業輸送など様々なご要望に対応しています。

観光スポット周遊バス あかいくつ



レトロ調の赤いバスで、桜木町駅から、横浜ハンマーヘッド、横浜赤レンガ倉庫、横浜中華街、元町、港の見える丘公園などの観光スポットを毎日周遊しています。2025年3月28日に、運行開始20周年を迎えました。

連節バス ^{ベイサイド} ^{ブルー} BAYSIDE BLUE



横浜ベイエリアの水際線沿いを快走するマットメタリックブルーの車体色が特徴的な連節バス。横浜駅からパシフィコ横浜、山下公園、横浜中華街、横浜赤レンガ倉庫、横浜ハンマーヘッド等へスムーズにアクセスが可能です。2025年7月23日に、運行開始5周年を迎えました。

令和7年3月31日現在

	一般乗合バス
営業キロ	516.9km
系統数	140系統
平均系統長	7.0 km
停留所数	1,237か所
在籍車両数	788両
運転車両数	1日平均 612両
運転キロ数	1日約6万km
乗客数	1日約31万人
運賃	大人 現金・IC 220円
	小児 現金・IC 110円

営業所

営業所名	所在地
保土ヶ谷営業所	保土ヶ谷区川辺町 4-2
若葉台営業所	旭区若葉台 2-15-1
浅間町営業所	西区浅間町 4-340-1
滝頭営業所	磯子区滝頭 3-1-33
本牧営業所	中区本牧元町 45-1
港南営業所	港南区日野南 3-1-1
港北営業所	港北区大豆戸町 581
鶴見営業所	鶴見区生麦 1-3-1
緑営業所	緑区白山 1-10-1
磯子営業所	磯子区森 3-1-19



地下鉄事業概要

市営地下鉄は、活力あるまちづくりの基盤として重要な役割を担っており、都心と副都心、街と街をつなぎ、1日約63万人（令和6年度決算）の市民のみなさまの活動を支えています。

市域をひとつに結んで走るブルーライン（横浜市高速鉄道1・3号線）は、昭和47年12月の開業以来着実に路線を延ばし、現在、あざみ野～湘南台間で全長40.4kmとなり、路線バスや各近郊鉄道との連携を図りながら、広域的な交通ネットワークを形成し、横浜の基幹交通として沿線地域の発展に大きな役割を果たしています。

また、平成20年3月には、横浜北部を東西に走るグリーンライン（横浜市高速鉄道4号線）が開業しました。この路線は、中山駅からセンター南駅・センター北駅でブルーラインに接続し、日吉駅までの13kmを結ぶ鉄道で、東京都心及び横浜方面へのアクセスが飛躍的に向上しました。

ブルーラインの延伸（あざみ野～新百合ヶ丘）については、概略ルート・駅位置を選定し、早期の事業着手に向けて、行政手続きなどを進めています。



1日あたり平均乗車人員（令和6年度）

駅名	乗車(人)	駅名	乗車(人)
01 湘南台	22,848	23 片倉町	10,552
02 下飯田	4,329	24 岸根公園	5,963
03 立場	10,149	25 新横浜	36,989
04 中田	8,702	26 北新横浜	6,423
05 踊場	8,851	27 新羽	10,734
06 戸塚	41,270	28 仲町台	15,277
07 舞岡	2,761	29 センター南	24,129
08 下永谷	4,933	30 センター北	19,260
09 上永谷	16,384	31 中川	8,466
10 港南中央	9,157	32 あざみ野	38,206
11 上大岡	33,405	ブルーライン小計	512,440
12 弘明寺	10,080	01 中山	14,209
13 蒔田	11,150	02 川和町	4,881
14 吉野町	8,472	03 都筑ふれあいの丘	10,354
15 阪東橋	11,726	04 センター南	16,714
16 伊勢佐木長者町	9,679	05 センター北	17,641
17 関内	20,271	06 北山田	12,750
18 桜木町	20,226	07 東山田	5,193
19 高島町	4,957	08 高田	8,132
20 横浜	63,471	09 日吉本町	8,297
21 三ツ沢下町	6,310	10 日吉	37,876
22 三ツ沢上町	7,310	グリーンライン小計	136,047
合計			625,292

* 合計は、ブルーライン・グリーンラインの乗換人数を1人として計上しているため、各路線の単純合計と一致しません。

* 1日あたり平均乗車人員は、365日で除いた人数の合計で、総計と内訳の合計は必ずしも一致しません。

令和7年3月31日現在

	ブルーライン	グリーンライン
営業区間	あざみ野～湘南台	中山～日吉
営業キロ	40.4km	13.0km
駅数 (内地上駅数)	32駅(5駅)	10駅(3駅) センター北・センター南は共用駅
所要時間	68分(快速60分) ^{※1}	21分 ^{※1}
平日 運転 間隔	朝混雑時	4分40秒
	昼間時	8分30秒～10分
	夕混雑時	6分
車両編成	6両	4両、6両
使用車両	3000形(A、N、R、S、V)、 4000形	10000形
保有車両	222両 (6両×37編成)	88両 (4両×7編成、6両×10編成)
車両基地	上永谷車両基地、新羽車両基地	川和車両基地
運賃	大人 現金210円～560円 IC 210円～555円 小児 現金110円～280円 IC 105円～277円	

※1 ラッシュ時を除きます。

横浜市営交通で市内観光

横浜市は、観光・MICE 振興による集客促進と地域経済活性化を強化しています。交通局では、観光スポット周遊バス「あかいくつ」に加えて、連節バス「BAYSIDE BLUE(ベイサイドブルー)」などを運行しています。

また、横浜の観光スポットを便利に散策いただけるよう、適用エリア内の市営バスと神奈中バス、市営地下鉄をご利用いただける1日乗車券「みなとぶらりチケット」などのお得な乗車券を販売しています。

みなとぶらりチケット

【料金】大人：700円／小児：350円

【横浜駅～吉野町駅】間の市営地下鉄、【横浜～元町・港の見える丘公園、三溪園、関内・伊勢佐木町～横浜橋・中村橋、滝頭】の市営バス（「あかいくつ」、「BAYSIDE BLUE」含む）、神奈中バス【適用エリア内および11系統（桜木町駅前～中村橋）】に乗れる1日乗車券。

エリア内には、約200の提携施設・店舗があり、チケット提示で特典が受けられます。

新横浜駅でも乗り降りできる「みなとぶらりチケットワイド」

（大人750円／小児380円）やデジタルチケットもあります。



その他の1日乗車券

●バス1日乗車券

【料金】大人：600円／小児：300円

（「あかいくつ」、「BAYSIDE BLUE」も乗車可能。）

●地下鉄1日乗車券

【料金】大人：740円／小児：370円

●地下鉄・バス共通1日乗車券

【料金】大人：830円／小児：420円

（「あかいくつ」、「BAYSIDE BLUE」も乗車可能。）

デジタル乗車券

上記の乗車券は、スマートフォンなどでいつでも・どこでも事前に購入することが可能です。利用の際は、券面が表示された画面を、バス乗務員や駅務員に見せるだけでスムーズに乗車することができ、キャッシュレスで、より快適にご利用いただけます。

資産の有効活用 駅構内や土地などの有効活用

駅構内における魅力ある店舗の誘致のほか、ATM等の設置や駅構内一時利用など小規模スペースを有効活用しています。また、高架下や営業所跡地等の土地を活用して、店舗・事務所・貸しビル・駐車場・駐輪場事業等を行っています。



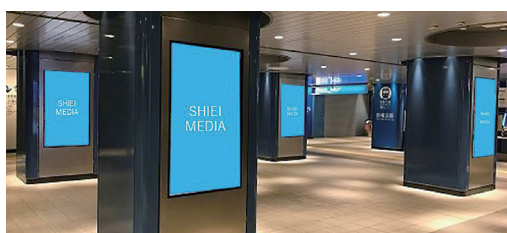
小規模スペースの活用（中山駅）

駅ナカ周辺情報サイト

駅構内店舗や時間貸しスペース情報、土地及び駅構内区画の事業者募集の情報を発信しています。



横浜市営交通広告



デジタルサイネージ（新横浜駅）

市営地下鉄の車内や駅、市営バスなどを活用した広告事業を行っています。車内ビジョンやポスター、駅のデジタルサイネージや大型ボード、ラッピングバスなど、お客様のニーズに合わせた広告掲出が可能です。



